LA4

665.

書庫

父母に孝行

其身は父母の遺体を請て天地の間に生して

人の道は[illegible]人の世の中に[illegible]なれと

[illegible]父母の恩を[illegible]忘れて[illegible]べき者

[illegible]父母の[illegible]天地の恩に

[illegible]その[illegible]

人[illegible]も　父母の病を[illegible]

[illegible]の[illegible]　父母に

[illegible]心[illegible]先に[illegible]

称る儒仏法語要　是記につゐて已にも法義あるは先その
色を明らかに甚らる称を正しく如何とて定めんとする也むし
厩戸皇子表佛者として　是よ顕の政事搭顕はしかは
是を深くは心は字称らを顕む世人にも佛心に相違も也き
蘇我の大臣の漢本須共らにして　是本顕まへ政事搭事
志る事　是つれや事々から心得　称らを顕し世人にもやしか
漢千つるに本で定めし此の皇子の大臣の如きは世の本意
称て法義たらん　さつとも深見人にはそれの左のたりとその好事
所かて先からし　称て其の寺をに残らす明らかにさせ給

於りは其の儀は　から定也而は代ひきを引き顕わ之る後に
しれるを世人乃字起りし称かきかけなく法して称らはみけ顕る
病を法世法の其を事にて顕ま　称もたも　是をは定徳起も
みし顕も世人をも猶きらに思ひなかみて人来しとしいへは
志をへ人乃如きては何やかてひたと定まらは何の字起い其を
ら称ぐ年深法称やして其本其の其称るく明らかにその起
わ称をとし　只志て其定る法等らんさて其のくし
此ため其の立ぬらん神無尽僧りけ来りしみる称ら隠
よ本よ本中法世ろしられ　かくてる称称中の隠り　其その起

やいらよ悪りにけるそれハ念々を深心志き近き物なれ
たゞ信へ来し　なつ心の道りもそのたえに深くにれて
安思しも志らぬ女来へきまて此一世かれ　らくら
われらの為りたものなると思ひ給ふけ念ふ仏を詠
西山はてなき他力本願をしえみ信心のみ永く出る
浄土来ても体にはいふての中あはれけき法は　念しそ
此身を置きしあらたまるゝ法その時に　なつ心乃たまらきを
是まても諸り憐む身を以てしき便宜の　まをふさ念経
勤礼とそまきて一人二人にして我大切ハ此ふるさうふなむ

与給わけふ清ま読めそ給ひて我もて若し病なるを見悪
はしめたまやみもたくされたる説本を思れて速しくらるまい
はしく思　つふ浄けし　是も其事を志るつを頼む親も
思ひなる我成念みし　世人ハ是し様ましに実きたるゝみて
かくれ其あらそわらはしも読めかも清此所明断をも記得ずし
われ此流たまる事清め大事なる此若し法をやうに流らえ候し
たゞひて深くも思ひとも無く浄けれ読め　そで違はしと知りて
おの清うら其意の出来し　なつ国ら我もつ中に志大切なり
法くその成らをうけやみ志り成形なふハやうてそれ生

さてそれを知らぬ漢人其国々に生れ出たる聖人をは
其国々をのみ尊きものと思ひ我邦を彼に劣れる
ものと彼に及はしとのみ思へれはまことにいとこゝろなき
国神及び己が先祖の祖先をも[illegible]思ひ捨て
やむことを得ず漢意のためにてもかの[illegible]所存のためならぬ
彼方のへもおもむきし[illegible]ことはいふもおろかなり
清き邦の[illegible]天地とともに八十萬神
神の[illegible]天地に[illegible]し　天照大御神の大御統は
天地と共に[illegible]かぬ[illegible]事物[illegible]

[illegible]のたゞ一すぢに光[illegible]国大人[illegible]
邦にても清らかなる国其国[illegible]
[illegible]
一人の天下[illegible]
[illegible]
国に[illegible]先[illegible]
た[illegible]
[illegible]
[illegible]

なにごともみな法に迷ふて、その法は何ぞと富貴を得る人もあらし
法なり。世の中において、ものの形は肉身なり。それやまひを得て死
天法なるに此形を整へる為、人家の位を得たる事は何を法
所形を愛する家の富を文は善と法とて、もろもろ
世人乃心は歳月を費ぬるまで此事をおもはず後に大方
此の世に在りて、万人の病を治めるに、人の命の哉
叔父なりとも国の為に形を求むるに、此病人を治むる此
是を得たりとやは得ず。大方此くのごとく
法文たるに我哉なりて家を富ますとて、人形

人の形は何く便宜を先にて富貴哉何も法を得て得たりとし
世人の心乃ち法所を得りて是を求む故法を此を為
形を見て此にも法にて何たるは形に於て法ひえ形は皆
かかる形の形を立てるを文や形を何も形病にても甚る
得まし病は病の甚る所哉得もて病の文又何法
心形そ得たるとも其の法の限られむを病甚れる形の
たつる先の病の心を平らかにして世の中を華とするに思ひ
くら法でもる　是観仏法にある心哉先として人形形もそ
古来法文也法にてからも形の法の人まくも形ハらむ

ことにちにそなはれる事其はしめは天地をなし

出現し　也須良の神代の宗のきし大日本也　また天の

始め出現は　大名持少彦名の二神の御出現より世の

かくれの八十蔭まて伝へ顕れし其のかくれ事にして　其ところ

大日本国の[illegible]人[illegible]を[illegible]して其[illegible]

かくれたる[illegible]の才を[illegible]其[illegible]伝へ[illegible]

さまさまにして[illegible]　天親に[illegible]人[illegible]

其末に至るまて天地のむた動かぬ　皇大日本国の[illegible]

皇[illegible]ありて神なる人にも[illegible]

くすしきこと

古よりいひつたへも[illegible]世のくしき人をもしつめと国やすまりぬ

国の[illegible]

天親に[illegible]心[illegible]

[illegible]て世に[illegible]

[illegible]や[illegible]世人の心[illegible]

[illegible]人我[illegible]

[illegible]人[illegible]

[illegible]

事あ[illegible]侍りて[illegible]からのうけられ給
人の[illegible]人の[illegible]
限りなき[illegible]知る[illegible]
天地の[illegible]
く[illegible]清國にし[illegible]
久[illegible]のかけ變動[illegible]
た[illegible]
家奴[illegible]已丸し

武藏野艸醫權田直助述

[illegible]常に口[illegible]先此一[illegible]
[illegible]也[illegible]有[illegible]

著書目録

門人等筆記

神遺方經驗鈔　十巻

本書の旨を活人ふ對て多年經驗のうへ注解をなし人身の成始内藏の宮能精神魂魄の玄理氣血精液の妙用疾病の根基寒熱痛痒の原因藥能の本元各藥の主治治術の準則各病の治法總て　皇國古醫道の深意此書ふ盡されたり

古醫方經驗　二巻　藥能略　二巻　古醫道或問　一巻

醫案語彙　一巻　同漢語彙　一巻　脈傳　一巻

傷寒綱領解　一巻